

令和7年度第1回長野市環境審議会 議事録

【開催概要】

- ・日 時：令和7年7月23日（水）14時00分から15時30分まで
- ・場 所：長野市役所 第二庁舎10階 講堂
- ・出席者
 - 委 員：穴山会長、錦織副会長、神頭委員、高木委員、西川委員、山下委員、池田委員、打矢委員、大澤委員、倉石委員、若林委員、傳田委員、松本委員
 - 事務局：中野環境保全温暖化対策課長、今田廃棄物対策課長、中村衛生センター所長、浅野環境保全温暖化対策課長補佐、桑原環境保全温暖化対策課長補佐、村石環境保全温暖化対策課長補佐、中村環境保全温暖化対策課専門員、鈴木環境保全温暖化対策課係長、清水環境保全温暖化対策課係長、倉澤環境保全温暖化対策課主事、村松環境保全温暖化対策課主事

【次 第】

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 事務局紹介
- 4 報告事項
 - (1) 第三次長野市環境基本計画の取組等について
 - ア 令和6年度取組結果と市有施設のエネルギー使用量について
 - イ 令和7年度指標・目標値の設定について
 - (2) 長野市バイオマス産業都市構想の進捗状況について
- 5 その他
- 6 閉 会

【資 料】

- ・本日の次第
- ・資料1 長野市環境審議会委員名簿
- ・資料2 長野市環境審議会事務局名簿
- ・資料3-1 環境マネジメント及び長野市環境基本計画の取組結果
- ・資料3-2 令和6年度 指標・目標値達成状況報告書
- ・資料3-3 令和6年度 市有施設のエネルギー使用量
- ・資料3-4 令和6年度 部局別エネルギー増減（原油換算）
- ・資料3-5 令和6年度 エネルギー使用量の主な増減
- ・資料3-6 令和6年度 長野市役所温室効果ガス排出量
- ・資料3-7 令和7年度 指標・目標値設定一覧表
- ・資料4 長野市バイオマス産業都市構想の進捗状況について

【会議内容】

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 事務局紹介 【資料2】

4 報告事項

- (1) 第三次長野市環境基本計画の取組等について
 - ア 令和6年度取組結果と市有施設のエネルギー使用量について 【資料3-1, -2, -3, -4, -5, -6】
 - イ 令和7年度指標・目標値の設定について 【資料3-7】

(西川委員)

資料3-2の目標1-3「市民一人当たりの年間温室効果ガス排出量」の算出方法を伺いたい。また、達成状況の評価は「達成」「未達成」だけだが、同じ未達成でも達成度に幅があるので、達成割合もあると良いのではないか。

(事務局)

目標1-3「市民一人当たりの年間温室効果ガス排出量」は、長野市全体の温室効果ガス年間排出量を市の人口で割って算出している。また、今回は単純に比較する目的で「達成」「未達成」のみで示したが、未達成は要因を分析し、達成に向けた取り組みを各部局と協議しながら進めていく。なお、この指標は第三次環境基本計画策定時に設定したものだが、今後はEBPMやアウトカムを考慮し、市の取り組みが市民に伝わる指標を設定したい。

(穴山会長)

成果に向かうKPIを設定し見える化するにあたって、ダッシュボードの作り込み等は事業者等が事業活動で工夫しているものがあると思うので、うまく取り入れると、より良い方向に進むのではないか。

(高木委員)

これは最終的なカーボンニュートラル達成を前提にした評価になっているのか。

(事務局)

資料3-2の目標「温室効果ガス年間排出量」は統計の数字を使うと3年遅れになるが、この3年前の時点では達成率100.9%だったので、令和8年度の目標には向かっている。ただ、前回審議会で説明した通り、新型コロナウイルス感染症の影響で一旦減少したものの、その後増加傾向にあり、事務局としてはカーボンニュートラル達成に危機感を持っている。

(高木委員)

新型コロナウイルス感染症の影響による減少とその後の増加はあっても、最終的なカーボンニュートラル達成に向けては、まあまあ順調にきているという理解でよろしいか。

(事務局)

現行計画では、目標の中間地点である2030年から最終年である2050年の間の減少量カーブの傾斜をきつくしないと2050年の目標に届かないで、そういった意味では、今のペースで行くと2030年目標の達成は微妙で、2050年目標の達成は、まして厳しいのが現状。

(高木委員)

KPIで数値を目標にすると、今年達成できたかどうかという目先の評価になりがちだが、最終的な目標を頭に入れて評価していくかないと、最後に無理が来る危険性がある。その視点をどう入れ込むかは課題だが、少なくとも数値を扱う事務局と、この環境審議会の中では、目標に対して今どういうポジションにあるのかを共有していくほうが良いと思う。

(若林委員)

資料3-2の令和6年度達成率について、総体として見た時に何をもってOKかどうか評価すれば良いのか。また、資料3-7の指標のうち、「温室効果ガス年間排出量」などは令和7年度目標値の他に「令和

「7年度に報告できる実績に対する目標値」が併記されているが、2つの数値の意味合いを教えてほしい。
(事務局)

資料3-2は単年度の目標を達成しているかどうか示しているだけなので、目標に向かって正しい方向になっているのか若干わかりにくいが、最終的には、令和8年度に設定した目標値の達成率により結論を出すことになる。もし達成率が至らなかった場合には、その要因を分析して次の施策に反映していく必要があると考えている。また、「温室効果ガス年間排出量」については、長野市域全体の温室効果ガス排出量を算定するのに必要な統計数字が揃うのに3年かかるので、今の段階で評価できる令和4年度の数値を「令和7年度に報告できる実績に対する目標値」として表記している。

(若林委員)

達成率については、単年度で見ていくと今期来期という短い期間での評価になってしまふので、令和8年度目標値に対して現時点で何%達成しているかという計画進捗状況があればわかりやすいと思う。
(事務局)

統計のとり方については工夫を凝らしていきたい。

(松本委員)

令和8年度までの目標達成が確実な項目については、より長期の達成率を設定できないか。

(事務局)

今回は令和8年度までの計画だが、温暖化対策の計画は2050年の目標に向かって今どこまで來るのかという視点が必要だと思うので、資料の作り方は検討したい。

(穴山会長)

指標には成果指標と活動指標があるが、現行計画はそれが混在している。さらに高木委員ご指摘のように、環境においては中長期的視点が重要なので、中長期的観点からのロジックツリーを書いた上で、この成果指標を達成するためにこの活動指標を達成するという指標間の関連性を意識すると、どの程度どのアクションで何の成果が上がつて見えるやくなる。今後のマネジメントでは、そういった工夫をすると、より良くなると感じた。

ところで、令和7年度の指標目標値は令和6年度実績を踏まえて考えると思うが、例えば目標3-4「市内中小河川9河川の水質階級Iの地点数」は、令和6年度実績8地点に対し令和8年度計画目標値が7地点以上ということだが、この指標は水質階級Iが多いほど良い、という理解で良いか。

(事務局)

水質階級は川に棲んでいる生き物で判定する。4段階あり、水質階級Iが最もきれいな生物が棲んでいる。現時点で、8地点全てが水質階級Iである。

(穴山会長)

令和6年度実績で8地点全てが水質階級Iを達成しているのに、令和7・8年度の目標値を「7以上」に後退させているのはなぜか。他にも令和6年度実績で目標値を上回っているのに、令和7年度の目標を下げている項目があるが、何か考え方があるのか。

(事務局)

目標値の設定については、過去の状況を踏まえて再度検討したい。

(神頭委員)

資料3-2で、令和6年度未達成であり、また達成率も非常に低いものとして環境学習の参加者数がある。改善策として取り組んでいることはあるか。

(事務局)

社会貢献として省エネ教室を開催している民間企業とタイアップした講座を、今年試験的に実施した。直営では開催回数に限度があるため、様々な主体と協力して環境教育の機会を増やすことは一つの解決策と考えている。

(神頭委員)

以前も話したが、学校現場はこういう機会を求めていると思うので、学校現場に出ていくという発想もあると思う。

(穴山会長)

活動指標系のものは策定して数年間この計画を維持していくので、時代の変化や実態の変化を踏まえた活動が出てきても良いと思う。事務局は新しい試みもしているということなので、そういった補完の説明が併せてあれば、納得感が高まるのではないか。

(西川委員)

体験型では難しいが、講演型であれば、ウェブ配信で参加してアンケート等のアウトプットをした人數や、YouTube 等で配信してフィードバックがあった人數を参加者として認めるという方法もあるのではないか。

(錦織副会長)

信州大学工学部では「ながの環境パートナーシップ会議」と協力し、学生と一緒に活動したこと授業とすることで環境活動や教育活動に貢献できていたが、参加する学生が減り、授業として時間を充てるのも難しくなってきた。長野市が学部長や学長へ直接要請して教員がトップダウンで動けるようになれば、もう少し大学として環境活動や教育活動に協力できると思う。

(傳田委員)

目標 1-4 に関して、以前から地球温暖化対策として公共交通の利用が叫ばれており、一時は啓発活動も行っていたが、慣れてしまったのか一人で乗っている車を多く見かける。また、長野大通りは自転車道と歩道が区別されているが、例えば S B C 通りは自転車道が一部しかなく、あとは歩道に乗らざるを得ない。歩行者と自転車がぶつかる事故もあるので、自転車道の延伸を考えていきたい。

(事務局)

自転車や公共交通の利用は温暖化対策としてかなり効果があるので、今も啓発は行っているが、働いている方の多くは、現状では車からバスや自転車に変えるのが難しい。ただ、ここは本当に手をつけないといけないので、関係課とも協力しながら対策を考えていきたい。

(2) 長野市バイオマス産業都市構想の進捗状況について【資料 4】

(錦織副会長)

中止している「食品廃棄物の利用促進」と「廃食用油の燃料化、活用」の各プロジェクトの今後の見通しはどうか。

(事務局)

「食品廃棄物の利用促進プロジェクト」については、バイオガス発電に適した事業用地の不足に加え、昨今のインフレで建設価格が高騰し、事業性が失われてきていると事業者は判断している。「廃食用油の燃料化、活用プロジェクト」については、事業者は廃食用油をボイラーの燃料として活用するよりもバイオディーゼル燃料にする方が、事業性があると見ており、中止している状況である。令和 8 年度の中間報告のタイミングでバイオマス産業都市構想全体を見直す予定なので、その際に各プロジェクトについても残すか、削除するか、新しいものに切り換えるか、プロジェクトの実施主体である事業者と協議し検討したい。

(錦織副会長)

別の事業者によるプロジェクトに変更されることもあり得るのか。

(事務局)

可能性としてはある。

5 その他

6 閉 会